

行事予定表		
2	火	ピヨピヨひろば
4	木	子育てサロン
5	金	七夕集会/写真撮影
8	月	笹焼き
9	火	生活写真(3・4・5歳児)
17	水	おべんとうデー/交通安全教室(3歳児以上)
18	木	子育てサロン
20	土	夏まつり
22・23	月・火	職場体験 (東洋大学付属牛久中学校より)
25	木	誕生会
26	金	避難訓練
30	火	巡回相談

五月に、北海道で40度近くの気温を記録したそうかと思うと、急に寒くなって、消した暖房便座を再起動させた。3歳児の中には、まだ体力がついていない子もいて、体調管理ができません、風邪をひく子も増えた。

それでも、梅雨の晴れ間には水をかけあい、ドロンコ遊びと水遊びに興じている。

七月になると、少しずつ熱帯高気圧が張り出し雨雲の向こうに、夏の太陽が順番を待っている。もうすぐ夏、かたつむり捕りからザリガニ捕り、虫捕りになる。



もうすぐ！夏まつり(7/20)
役員の方々は何度も集まり、着々と準備をして下さっています。今年も当日のイベント参加は2歳児以上(にじ・ひかりは自由参加)となりますが、当日はご家族で楽しんで頂けたらと思います。

夏祭り当日の土曜保育は13時までです。

今月の予定の中から・・・

- 七夕集会・クラス写真撮影(5日)
- ・笹の葉に子ども達の短冊や七夕飾りが日ごとに増えています。子ども達の中にはお家で作った飾りをつけている姿も見られとても嬉しく感じています。
- 交通安全教室(17日)
- ・今月からは、だいちぐみ、きりんグループの子ども達も参加します。信号の見方・渡り方をパネルシアター等を通して学びます。大人が見本になりたいものですね。
- おべんとうデー(18日)
- ・お家の方の手作りお弁当！子ども達が毎月楽しみにしています。暑い日が続いていきますので、お弁当は必ず冷ましてから蓋を閉め、要冷蔵のものは入れないようにして下さい。宜しくお願いします。
- 誕生会(25日)
- ・今月のお楽しみは「バルーンショー」です。子ども達の心躍る様子を見られる事と思います。費用は保護者会より出して頂きます。いつも有難うございます。

☆お願い★お知らせ。
☆降園時、すぐにお子さんと帰宅出来ていますか？

・保護者の方の中にはお迎え後、何十分も園内でいらっしゃる方を見かけます。お家の方が迎えにきたら帰る。と言うことをお子さんに知らせる事も必要ですね。「帰らないから」とお子さんのせいにせず、お

さんに伝わる簡単な言葉で伝えていく事がお子さんのためになると思います。

☆お子さんの衣服は汚れても良いシンプルなものでお願いします。

★先月より保育士として遠藤真実さんが勤務してくれています。

三人の命の体験

コンビニに入ろうとした時、目の前を燕がすめた。見上げるとヒナが一斉に口を開けて、パイパイとエサを求めている。なんとなく頬が緩んだ。同じ日の午後、公園で三羽のスズメが地面をついばんでいた。おそらく二羽は親スズメで、一羽はまだ飛び始めたばかりの子スズメだった。久しぶりに見るスズメの親子をほほえましく眺めていた。すると突然、黒い物体が子スズメ目かけて突進した。大きなカラスだ。子スズメを猛猛にくわえ、飛び去って行った。親スズメは逃げようとせず、私と同様に驚愕して、ただただ立ち尽くしているだけだった。自然界の生命の厳しさを思い知らされ、いやな気分になった。▼真意の程は定かでないが、思い出したことがある。燕は猛禽類や猫に襲われないように人間の生活圏に近いところに巣を作るそうである。はたしてそうだろうか？昔は好奇心旺盛な悪ガキが沢山いて、何にでも興味・関心を持ち、知りたがる。取手の幼稚園の玄関先に、燕が巣を作り、ヒナを育て始めた。親鳥がせっせとエサを運んで、ヒナがパイパイ鳴きエサをねだっている姿は、とてもかわいらしく、多少玄関先を汚されても、菓子箱を下に置いて、見守っていた。しかし、ある日の夕方、三人の悪ガキが、先にクギの出た長い棒で、巣を落としてしまった。職員室にいた先生達

に現行犯逮捕された。私が出先から戻ると、玄関先で三人は先生達に恐い刑事さんなんかよりよっぽど怖い形相で怒られていた。まるで極悪非道の凶悪犯のような扱いであった。▼私は、涙目になり小さくなった彼等を、玄関先に連れ出し、落とされたヒナを前にして、彼等の思いは分かっていたが「どうして、こんなことしたの？」と尋ねた。彼等は泣きだしそうになって、さつきより、もつと小さくなって、肩を寄せ合って下を向いていた。「巣の中を見たかったの？」と言うと、黙ってコクリとうなずいた。一羽のヒナが死んでいた。向うの電線に、親鳥が止まって、心配そうにこちらを見ていた。死んでしまったヒナと、そのぬくもりを手のひらに持たせ、親鳥の様子を見せた。「毎日、せっせとエサを運んで、小さな命を守り育て、ヒナ達も一所懸命生きようとしてたんだよね」と言うと、三人の目から大きな涙が流れた。「よし、巣を作り直そう！」と声を掛け、そして発泡スチロールで箱を作り、その中に巣とヒナを戻し、ガムテープで頑丈に軒下に貼りつけた。勿論彼等も脚立を運んだりして働いた。巣を作った後で、地球儀を持ってきて、燕は春になると、何千キロも遠くの東南アジアから渡ってきて、日本で子育てをして、秋にまた東南アジアに戻って行く話をした。彼等は神妙に聞いて帰って行った。燕が巣に戻らないか心配したが、翌朝玄関の軒を見上げると、燕は戻っていた。彼等も学校に行く前に、心配そうに見に来た。燕には申し訳ない体験をした。

※6月の園便りの続きは次回に回します。

理事長 浅田 精利

